

令和7年度（2025年度）県立高等学校の学科改編 について

このことについて、別紙のとおり定めることとする。

（提案理由）

県立高等学校の学科改編については、熊本県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則第2条第2項の規定により、教育委員会に付議する必要があるため。

参考：関係法令条項

熊本県教育委員会の権限に属する事務の委任等に関する規則
（平成20年4月1日施行 教育委員会規則第5号）

第2条（教育長へ委任しない事務）

第2項 教育長は、前項各号に掲げるもののほか、重要又は異例に属する事務
については、教育委員会に付議しなければならない。

(別紙)

令和7年度(2025年度)学科改編について

1 学級減を含む学科改編

阿蘇中央高校

(1) 学校及び学科改編の概要

下線部が変更点

改編前	募集定員		改編後	募集定員
【阿蘇校舎】 普通科	120名	➡	【阿蘇校舎】 普通科	<u>40名</u>
総合ビジネス科	40名		探究科	<u>40名</u>
【阿蘇清峰校舎】 農業食品科	40名		総合ビジネス科	40名
グリーン環境科	40名		【阿蘇清峰校舎】 農と食の科学科	40名
社会福祉科	40名		緑と水の科学科	40名
			社会福祉科	40名

(2) 魅力化のポイント(学びの特色や外部連携)

学校全体で自治体・企業等と連携しスマート産業の学びを導入
探究活動を充実させた「探究科」を創設し、探究心を持ち、多様な他者と協働し、主体的な姿勢で学び続け、変化に対応できる力を育成
学科の枠組みを維持した単位制を採用し、多様な学びをサポート

学校全体で自治体・企業等と連携しスマート産業の学びを導入

商業系：アイデア IT カレッジや D-HORIZON (IT系企業) 等と連携し、最先端の情報技術について学び、高度情報化社会に対応できる人材を育成する。

農業系：東海大学農学部や 中九州クボタと連携し、スマート農業について学ぶとともに、地域の事業者と交流の場を設け、地域農業の担い手を育成する。

福祉系：熊本県福祉介護用品協会や 介護施設等、県内大学と連携し、専門の知識を深め、最新の用具を活用した実習等を行い、地域福祉の担い手を育成する。

探究活動を充実させた「探究科」を創設し、探究心を持ち、多様な他者と協働し、主体的な姿勢で学び続け、変化に対応できる力を育成

探究科：阿蘇市、阿蘇ジオパーク、地元商店街、青少年交流の家等と連携し、地域の課題解決のための探究活動を充実させる。多様な他者と協働しながら、人生を切り拓く力を育み、大学入試において総合型選抜等での進路実現に繋げる。

普通科：熊本県立大学 (総合管理学部) 等の 県内大学と連携し、総合的な探究の時間及び各教科科目の探究を充実させ、上級学校への進学に対応する確かな学力を育成する。

学科の枠組みを維持した単位制を採用し、多様な学びをサポート

多様な進路希望に対応できるよう、学科内での多様な選択科目及び学科の垣根を越えて習得できる選択科目を充実させ、幅広い学びをサポートする。

2 学級減を含まない学科改編

水俣高校

(1) 学校及び学科改編の概要

下線部が変更点

改編前	募集定員	→	改編後	募集定員
電気建築システム科電気コース	20名		<u>半導体情報科</u>	20名
電気建築システム科建築コース	20名		<u>建築科</u>	20名

(2) 魅力化のポイント（学びの特色や外部連携）

半導体企業の施設を活用し、共同研究・開発・研修を取り入れた実践的な学びの導入による半導体関連人材の育成。
基礎技術の習得と建築・建設分野にDXの視点を取り入れた学びの導入。

半導体企業の施設を活用し、共同研究・開発・研修を取り入れた実践的な学びの導入による半導体関連人材の育成。

株式会社アスカインデックス、水俣市、県立水俣高校の3者による「半導体関連人材の育成を通じた水俣市の活性化及び水俣高校の魅力向上に関する連携協定」をもとに、相互に連携・協力しながら、半導体に係る教育活動の展開や人材の育成を図るとともに市の活性化にも資する。（5月教委決定済）

基礎技術の習得と建築・建設分野にDXの視点を取り入れた学びの導入。

芦北地域振興局、地元建設業協会、株式会社KAWATSUと相互に連携・協力しながら、建築・建設の分野に必要な基礎・基本の習得を大切にするとともに、最先端技術のドローンや3次元点群データによる3次元設計など、建築DXの推進を図る技術を学び、地元の建築・建設業で活躍する人材育成及び地域の建設業の担い手育成につなげる。

3 施行日

令和7年4月1日